

柴 着 に つ い て

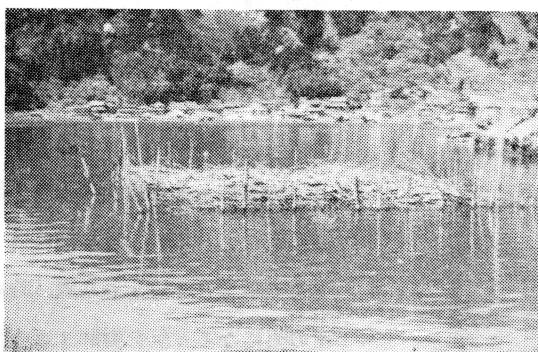
(II) 三 方 湖 の 柴 着 渔 業

武生高等学校 五十嵐 清

北潟湖と同じように三方湖の柴着（しばつけ）は冬の風物の一つであろう。魚に恵まれた三方湖には季節季節で色々な漁法がみられるが、何といっても、叩き網と柴着漁は冬だけにみられる特異な漁法といえる。冬に入って湖水の温度が急に下ってくると（ 7°C ）、魚の動きが鈍くなり、柴の中にもぐり込んで冬ごもりに入る。柴着漁は魚の習性をうまくつかんだ原始的な漁法といえよう。

柴着のやり方は三方湖と北潟湖とでは色々な点で違いがみられて対照的で興味が深い。

三方湖は三方湖群（三方湖、水月湖、管湖、久々子湖、日向湖）のうち、水月湖に次いで大きな湖で、水月湖が水深30m余りもあるのに比べて、僅か2m程で、冬期では気温の変動を敏感に湖底まで反映して水温は急激に下ることになる。五湖の中、柴着がみられるのは三方湖だけ



三 方 湖 の 柴 着 三方町別所

1967. 11. 8

であって、他の四つの湖には全く見当たらない。

湖岸一帯に点々とおかれている柴の山は北潟湖のものより大きく、数も多い。

柴着のおかれている地点は魚の移動と関係が深く岸から凡そ數mの所が多い。柴着用いられる材料は北潟湖では主にアカマツの枝を無造作に積み重ねたのに比べて、三方湖では主としてクヌギ、シデ、クリ、コ



三 方 湖 の 柴 着 材 料
主 に コ ナ ラ 三方町鳥浜

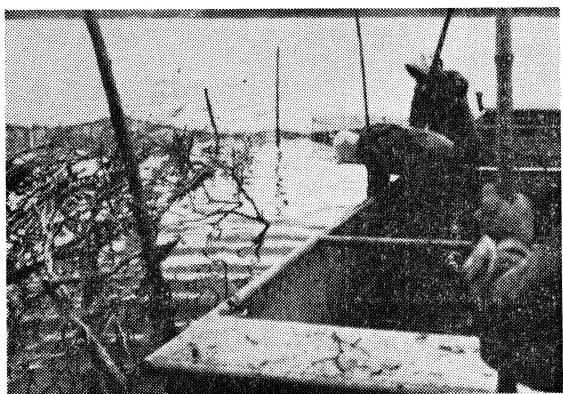
1967. 11. 8

ナラ、などの広葉落葉樹（所謂）が使われる。木の枝の細い部分は束にして順序よく並べられる。一ヶ所の柴着で約500束、目方にして約10m程になるが、その上に更に太い板を重ねて柴着はでき上る。柴着の大きさは横13m、縦8mで、四隅をくいで止めて流出を防いでいる。秋も終りに近づく頃、水温が急に下ってくると、魚は越冬の場所を探し求めて柴の山の中にもぐり込む。湖



柴着の柴束 三方町鳥浜

1967. 11. o



柴着の柴上げ作業
三方町鳥浜 1967. 11. 8

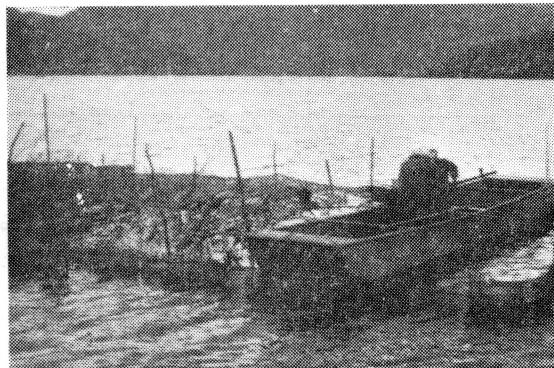
る素朴な心情の現われで、見ていて嬉しくなる。竹簾の回をすっかり張り終ると、その中の柴木の束を一つ一つ丁寧に取除いてゆく舟の上の作業は大変な重労働と思われる。引き揚げられた柴束の中にはテナガエビ、タモロコ、小ブナなどがひそんでいて、それをピクの中に叩き落し、柴は別の場所に置き換えられる。柴にもぐり込んでいたフナやコイの大物も目を醒して逃げまどい、ツボの中に入り込むが、結局一網打尽に上げられている。北潟湖の柴着が主としてコイ、フナ、などの大物を目当てにしているのに比べて、三方湖の柴着ではテナガエビ、タモロコ、モツゴなどの小物が主であるが、其の他にフナ、ウグイ、オイカワ、ハス、ヤリタナゴ、ウナギ、ナマズ、コイなどがとれる。その中でもテナガエビは最も有望で、中京方面で高価に取引きされる

面を冷たい風がしきりに撫でる 11
月下旬頃から3月初めにかけて柴着漁が行なわれるが、最盛期は12月下旬から2月下旬までの寒い時期でその頃になると肌を突刺すような吹雪の中で、きびしい水揚げの作業が終日繰返えされる。先ず柴着の周りを竹簾ですっかり囲んでしまう。回の一隅に小さい囲が取付けられるが竹簾の使い初めの時には小さな徳利がぶらさげられる。これは大漁を祈

その価値が高い。

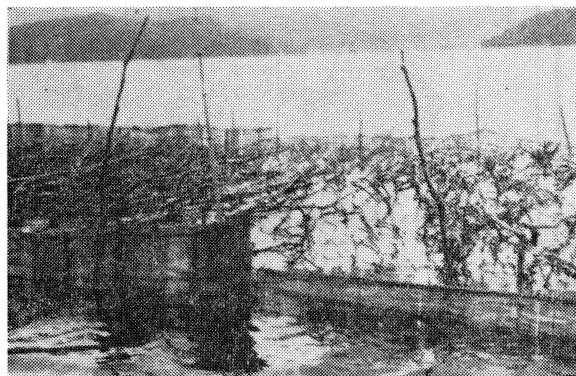
柴着には一把着（イチワヅケ）と称する一抱え程もある柴の束を湖底に沈めてテナガエビを目当てにする方法もある。これは湖心一帯に置かれている。その外にコイヌクミ（鯉柴着）と称する大型の柴着があるが北潟湖の柴着に似て稚木の幹の太い部分が用いられ、主にコイ、フナ、のためのもので漁業組合直営である。

近年のテナガエビの漁獲も不安定



柴束を引上げ 魚をとるところ

三方町鳥浜 1967. 11. 8

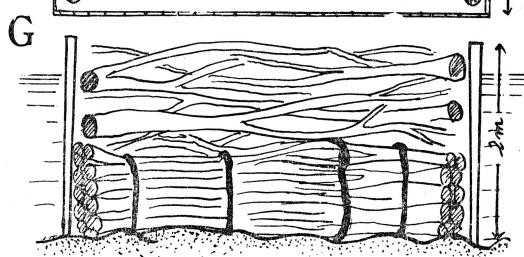
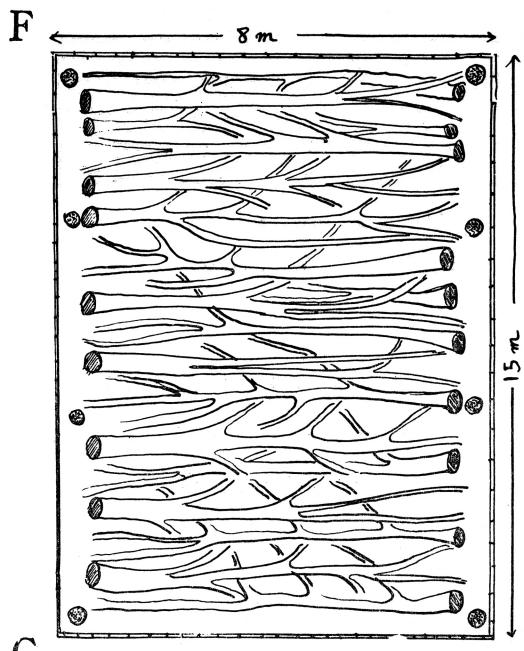


竹 簍 と ツ ボ 三方町鳥浜

1967. 8. 11

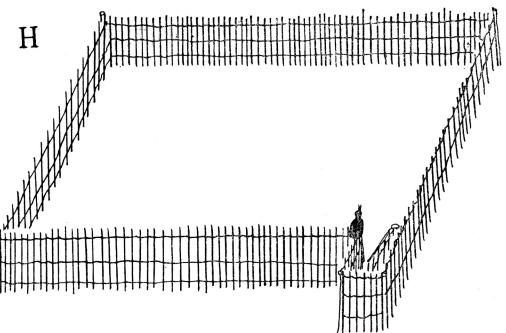
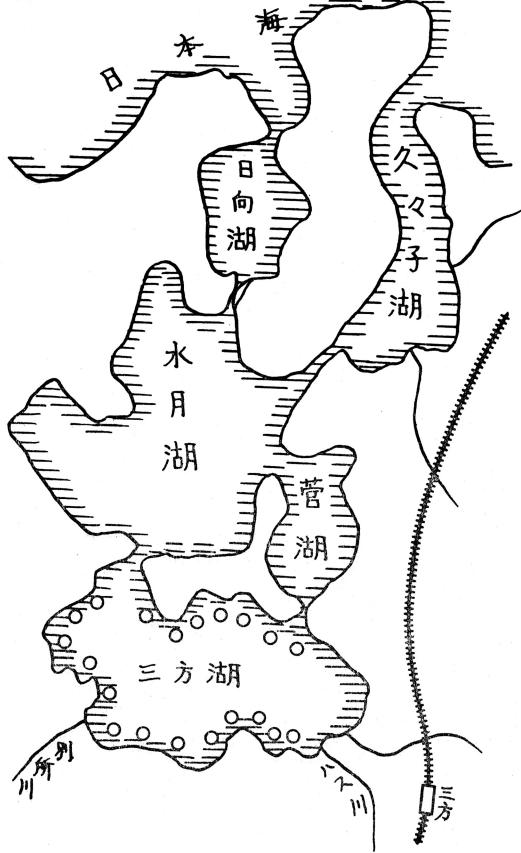
であるが、湖水の環境調や生態研究など急いで考えねばならない問題が多いように思われる。

I 三方五湖と柴着地点 1968



A 柴着の柴木のおき方 (模式図)

B 柴着の断面 (模式図) 1968



柴着の周りを囲う竹籬 (模式図)

1968

表 1

北潟湖と三方湖の柴着と主な魚種

1968

	北潟湖	三方湖
柴着の材料	アカマツ	ブナ、クヌギ、コナラ、クリなど
柴着の型	コイヌクミ	コイヌクミ、イチワズケ、 ヌクミ(最も多い)
漁法	網目の大きい網で囲んで漁る	竹簣で取囲み漁る
柴着の漁期	1月上旬～3月中旬	11月下旬～3月上旬
柴着に入る 主な魚種	ギンブナ、ゲンゴロウブナ、 コイ、ウグイ、オイカワ、 タモロコ、ナマズ、テナガエビ	ギンブナ、ゲンゴロウブナ、コイ、オイカワ ウグイ、ハス、ヤリタナゴ、ウナギ、ナマズ、 タモロコ、モツゴ、テナガエビ